

メディアセンターの活動の記録＜2024年度＞

メディアセンター本部

1. 全体

- (1) 「早慶ライブラリーブックシェア」・「早慶ライブラリーパスポート」の開始
早稲田大学図書館との相互利用を強化し、「早慶ライブラリーブックシェア」（自校の図書検索システムから相手校の資料をリクエストして自校で借りることが出来るサービス）と「早慶ライブラリーパスポート」（自校の学生証・教職員証で相手校の図書館に入館できるサービス）を4月から開始した。
- (2) 海外への派遣研修
長期滞在型研修の実施においては、英国セインズベリー日本藝術研究所へ職員1名を9月から約3カ月間派遣した。相互の人材交流プログラムを持つ米国ワシントン大学図書館からは、12月に資料保存担当の図書館員2名が来学し、三田メディアセンターでの業務説明・図書館見学を行ったほか、全5日間の行程で国内の関連施設や保存・修復専門業者などを訪ね見聞した。また、2024年に学術交流協定を締結した国立台湾図書館へ、3月上旬に全3日の行程で職員3名を派遣し、図書館見学や業務に関する情報交換を行った。
- (3) 第13回メディアセンター研修会
2024年11月22日（金）に「どうするオープンサイエンス：2025年度義務化目前」をテーマとするスタッフ向け研修会を開催し、144名の参加があった。

2. リソースマネジメント関連

- (1) 学術論文のオープンアクセス推進への協力
慶應義塾の学術成果のオープンアクセス化を進めるため、論文掲載料の免除・割引を含めた電子ジャーナル契約である「転換契約」の締結を推し進めている。2024年度末時点で、転換契約を結んでいる出版社はElsevier, Wiley, Oxford University Press, Taylor & Francis等の6社に上る。また、2024年度の文部科学省による「オープンアクセス加速化事業」の補助金を得て、学術研究支援部との

協力の下、慶應義塾の学術成果のオープンアクセス化推進に寄与した。

- (2) 早慶和書電子化推進コンソーシアムの活動
和書の電子書籍拡大を目指して2022年に開始した同コンソーシアムについて、2024年度も4つの国内出版社との実証実験を継続した。活動の促進のために、6月に早稲田大学を会場に出版社向けの成果報告会、11月には早慶の両図書館にて岩波書店によるトークイベントを開催した。

3. システム関連

- (1) 事務用PC環境の標準化
業務のIT化を開始して以来、独自の環境で運用してきたメディアセンター職員のPC環境を、慶應義塾の事務標準環境へと移行した。

三田メディアセンター

1. 館内設備・工事

- (1) 記録的な集中豪雨のため、新館地下書庫を中心に漏水が発生した（8月21日）。閲覧席や床が水浸しになったうえ、資料の水損も確認された。これを受け、漏水したエリアに対策工事および止水工事を実施した。
- (2) その他の主だった設備更新・工事は以下の通り：
 - a 新館1階レファレンスルーム、ブラインドの更新（8月夏期一斉休業期間中）
 - b 新館2階東閲覧室椅子の更新（9月6日）
 - c 新館2階男子・3階女子・5階女子手洗いの洋式化（2月23日～3月7日）
 - d 新館5階研修室椅子の更新（3月25日）

2. 資料移動・移管

- (1) 慶應義塾関連映像および音声資料（オープンリール、VHS、カセットテープ）を福澤研究センターに移管した（4月30日）。
- (2) 書庫狭隘化対策のため、国内遺跡発掘調査報告書（請求記号EX@～）および遠山音楽文庫（請求記号TY/TYN@～）の再配置を実

施した（それぞれ6月21日、7月1日）。

- (3) 『時事新報』原紙（創刊号を除く）を、新館保存庫から外部書庫へ移動した（1月16日）。
- (4) 『花井家史料』（請求記号JH@8A@591）を研究室棟地下書庫から外部書庫へ移動した（3月7日）。

3. イベント

- (1) オープンキャンパスにて、来場者にメディアセンターを公開した（8月1～2日）。延べ2,000名を超える来館があり、1階展示室に足を運ぶ人も多く見られた。
- (2) 早慶和書電子化推進コンソーシアムの活動の一環として、岩波書店トークイベント『岩波文庫・岩波新書のつくりかた』を、慶應義塾図書館と早稲田大学中央図書館で開催した（それぞれ11月5日、29日）。本イベントでは岩波文庫編集長および岩波新書編集長にご登壇いただき、文庫や新書ができるまでの舞台裏についてご講演いただいた。慶應の回は新館1階イベントエリアで開催され、事前申込制により36名の参加者を集めた。また、イベントと同名の記念展示を1階ラウンジエリアにて実施した（10月28日～11月8日）。

4. その他

- (1) 三田メディアセンター利用規則を改正し、Webサイトに再掲載した（4月15日）。
- (2) 慶應義塾がかつて刊行していた『文學雑誌』のうち所蔵がない創刊号について、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センターより現物を借り受け、三田メディアセンターで電子化を実施した。完成したPDFファイルは1階データベースエリアの館内専用端末にて提供を開始した（5月13日）。
- (3) 『井筒俊彦文庫』のパノラマ画像を三田メディアセンターWebサイト上で公開した（12月5日）。この文庫は故・井筒俊彦名誉教授の旧蔵書で、もともと同氏の自宅内書庫で保管されていた。パノラマ画像では当時の書庫の様子が再現されている。
- (4) 電子化を進めていた『時事新報』（1882年3月～1920年12月分）について、1階データベースエリアの館内専用端末にて提供を開始した（12月）。

- (5) 2025年度中に開始を予定している「図書館資料PDF取り寄せサービス」に備え、SARLIB（図書館等公衆送信補償金管理協会）に「特定図書館」の届出をした（1月22日）。
- (6) 管財部、慶應学術事業会、警備室、保健管理センターの協力のもと、全スタッフを対象とした防災訓練を実施した（2月17日）。防災設備については動画を視聴するだけでなく、実際に設置場所に出向き、設備を実見した。AED講習や消火器体験も盛り込まれ、実践的な訓練となった。
- (7) 貴重書『論語疏卷第六』が国の重要文化財（書跡・典籍の部）に指定された（3月21日）。慶應義塾図書館所蔵資料としては、6件目の指定となる。

日吉メディアセンター

1. 施設・設備

- (1) 3階グループ学習室のOAフロア敷設とパーティション取り替えを行った（8月）。



図1 3階グループ学習室

- (2) 地下1階AVホールの扉を防音扉にした（8月）。
- (3) 正面玄関中央部分のスロープタイルを貼り換えた（8月）。
- (4) 3階北閲覧室西側の什器を入れ替えた。不要になった閲覧机は2階バルコニーへ移設し、バルコニー内の大型ソファの配置を変更した（8、9月）。

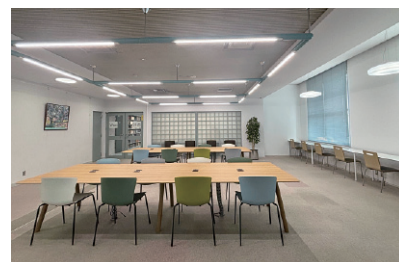


図2 3階北閲覧室西側

- (5) 北側（第4校舎側）外壁面の補修工事を行い、窓を遮光ガラスに交換した（9月）。
- (6) 1階AVコーナーのブースを6台撤去し「声出しブース」を4台新設した（10月）。



図3 声出しブース

- (7) 館内コピー機のコインベンダー4台のうち、利用の多い1, 3階設置の2台を新札対応ユニットに交換した（1月）。
- (8) マイクロリーダープリンタを入れ替えた（3月）。
- (9) 1階コピー機カードリーダーを撤去した（3月）。
- (10) 2階東閲覧室OPAC端末を4階へ移設した（3月）。

2. 企画・広報・イベント

- (1) セルフオリエンテーションの開催
新入生を対象とした春は213名（4月1日～30日）、通信教育課程夏期スクーリング生を対象とした夏は125名（8月2日～17日）の参加があった。
- (2) オープンライブラリーの開催
慶應義塾大学の受験を考えている受験生を対象に実施し、夏（8月1日～31日）は595名、春（3月1日～22日）は132名の入館があった。
- (3) オープンキャンパス図書館見学
6月30日は1,286名、7月7日は1,621名の入館があった。
- (4) 図書館フレンズの活動
 - a 丸善丸の内本店で選書ツアーを実施し（5月）、選書した図書の展示を行った（7, 8月）。
 - b 協生環境推進室協力のもと、学外者も観覧可能な手話通訳付きビブリオバトルを開催した。学外観覧者は手話を必要とする方4名を含む計17名だった。その後、ビブリオ

バトルで紹介された図書と手話関連の図書を館内に展示した（7月）。

- (5) HAPPライブラリーコンサート
恒例の弦楽四重奏・ジャズ（5月）のほか、公募企画古楽トークコンサート（10月）、教員によるジャズ（11月）を開催した。

3. 利用者サービス

- (1) 日吉キャンパスの選択科目「アカデミックスキルズ」履修学生による学習相談の窓口を、春は4月17日～7月21日、秋は10月16日～1月31日の間、それぞれ平日の午後に開設した。
- (2) 理工学メディアセンターのラーニングサポート（大学院生）による出張相談を、学期末試験期の春3日間、秋2日間実施した。
- (3) 「English Academic Skills」（経済学部PEARLプログラムの1年生向け秋学期必修授業）に対しては、2024年度以降、対面セミナーは中止し英語の動画を作成し提供することとした。
- (4) 台風7号接近に伴い通信教育課程夏期スクーリング授業が休講になったことにあわせ、8月18日は日吉図書館・協生館図書室共に臨時休館とした。
- (5) 1月17日～24日、テスト期間中の閲覧席不足解消のため、AVホールを自習室として開放した。

4. 資料の移動

- (1) 地図を1階指定資料コーナー前から新聞・雑誌コーナー横へ移動した（4月）。
- (2) ギリシャ・ラテン語図書を4階東閲覧室から4階西閲覧室へ移動した（5月）。

5. 協生館図書室

- (1) 書架狭隘化のため、SDMとKMDの製本雑誌を一般書架から集密書架へ移動した（9月）。
- (2) 雑誌の配架順序をアルファベット順に統一し、和雑誌15タイトルの入れ替えを行った（2月）。
- (3) 閲覧室と事務室の蛍光灯をLEDへ交換した（2月）。

信濃町メディアセンター

1. 教育・学習支援

(1) 看護医療学図書室との連携・協力

看護医療学図書室に設置したオンライン利用環境にて、利用者からの問い合わせに応じて湘南藤沢メディアセンターと信濃町メディアセンターそれぞれのレファレンス担当によるサポートを開始した（6月）。

2. 館内リニューアルプロジェクト

(1) 工事・什器関連

1階マナビバエリア・ゲート正面エリアに新什器を設置した。予約可能なグループ学習スペース「マナビバブース」や、1人でも複数人でも使いやすいワークテーブルを多数設置した。カフェのような落ち着いた学習空間「マナビバラウンジ」を設置し、入退館ゲート前の新着資料棚と記入カウンターを更新し、OPACを移設した。入退館ゲート前には、サイネージとして大型ディスプレイと、新着の図書や雑誌を集約した書架を設置した（8月）。マナビバラウンジにソファ席を12席設置し、くつろぎエリアに書架を設置した（3月）。

(2) 資料関連

1階くつろぎエリアの配架雑誌を書庫1階新着雑誌の棚へ組み込み（7月）、入退館ゲート正面の新着棚で、一部の新着雑誌の展示を開始し、研究の遂行・論文執筆に関する書籍などを集めた「研究支援コーナー」を新設した（8月）。くつろぎエリアに「教員著作コーナー」を設置し、医学部新聞「読むべき3冊」記事の紹介パネル展示を開始した（3月）。

(3) 館内飲食ポリシー

「マナビバ」「くつろぎ」エリア限定で、「蓋つきの容器に入った飲み物」および「臭いが出ず、手が汚れない菓子類」の持込・飲食を可とするルールを試行運用を開始した（8月）。

3. 医療活動支援

(1) 関連病院図書担当者連絡会開催

オンラインで開催し、12機関が参加した。例年行っている関連病院コンソーシアム契約状況報告および信濃町メディアセンター活動報告のほか、参加者より病院図書室の事例報告

があった。懇談の時間では活発な情報共有や意見交換が行われた。オプション企画として患者図書室の選書に関するワークショップを開催した（2月）。

(2) KOMPASサイトリニューアル

大学病院Webサイトと合わせてリニューアルした（3月）。スマートフォン対応、操作性や視認性の改善に加え、大学病院Webサイトと同時にリニューアルを行ったことで一体感のあるデザインとなった。

(3) 健康情報ひろば

教員著作コーナーを創設した（4月）。学内教員による、健康医療分野の選書情報を共有する科研費研究プロジェクト「Web協働選書」に参加した（7月）。新たに2名のボランティアスタッフを受け入れた（9月、1月）。外来師長室によるボランティアスタッフ向け手指衛生講習会が開催された（10月、11月）。「ボランティア感謝の集い」では8名のボランティアスタッフが出席した。（12月）。

4. 資料関連

(1) 山中資料センター配架資料の除籍準備作業

山中資料センター配架の信濃町メディアセンター所蔵資料のうち、信濃町メディアセンター内配架資料と重複している図書（約6,503件）の確認・選別作業が終了した（3月）。

(2) 大鳥文庫の簡易帙作成作業

状態のよくない資料（100冊程度）を山中資料センターから取り寄せ、簡易帙を作成して戻す作業を開始した（7月）。

5. 施設・設備

(1) 1階壁面塗装・カーペット張り替え

1階マナビバ、くつろぎエリアの壁面塗装およびカーペットを張り替えた（4月～5月）。

(2) 複合機・コピー機等の入替・撤去

事務用複合機1台・コピー機2台・FAX1台を入れ替え、利用者用コピー機2台を撤去した（3月）。

6. その他

(1) 防災訓練の実施

災害・非常時対応マニュアルに基づき火災・地震時の対応を確認した。避難経路や消火設

備の位置・取扱方法を確認し、震度6の地震発生を想定した実地訓練を行った(8月)。

- (2) CRIK 信濃町書棚ディスプレイへの協力
管財課環境担当からの要請により、CRIK 信濃町開所式に向けて、書棚3か所のディスプレイ作業を行った。除籍予定のIndex Medicus、仮受資料、寄贈、重複交換用の雑誌や図書を配架することで対応した(5月)。
- (3) 医学教育認証評価への協力・実地調査対応
日本医学教育評価機構(JACME)の評価員の拠点が北里講堂となり、必要に応じて信濃町メディアセンターの会議室等の施設を提供した。館内の実地調査視察にも対応した(10月)。

理工学メディアセンター

1. 施設・設備の改修・変更

- (1) メディアセンターに設置されているウォーターサーバー2台を、矢上キャンパス内のウォーターサーバー増設を進めている管財課の管理下に組み入れた。
- (2) 本館1階および2階照明のLED化工事を行った(8月9日~18日)。
- (3) IDEC社入退館ゲートの改修を行い(9月5日)、早稲田大学所属者も正規生・専任教職員はICカードで、名誉教授はバーコードで入退館が可能になった(10月~)。
- (4) 本館1階荷解き室の換気対策として、除湿器設置工事を行った(11月16日)。
- (5) 創想館地下の和式トイレを撤去し、洋式トイレを設置した。またこれに伴い配管改修を行った(11月17日~24日)。
- (6) 本館1階KICプリンターのコインキャッシャーを交換し、新1,000円札にも対応できるようにした(11月22日)。
- (7) 博士課程教育リーディングプログラム終了に伴いメディアセンター施設となった本館3階の改修を順次進め、2025年4月のオープンに向けて、2024年度内に工事を完了した(2月~3月)。

2. 企画・広報・イベント

- (1) 2024年度ノベルティグッズとしてモバイルスタンド&クリーナーを作成した。プレゼンバ

トルへの参加や、オープンライブラリーのスタンプラリープレゼントとして学生や来館者に配付した。

- (2) 選書ツアーを紀伊國屋書店新宿本店で行った(9月4日)。POPとツアーの様子の展示パネルを作成し、選定により新規購入した資料162冊の展示を開催した(2024年12月6日~2025年2月28日)。
- (3) 第4回プレゼンバトルを開催し(12月)、プレゼンター・観戦者ともに理工学部生のみならず他キャンパスからの参加を多く得た。教員が講師となるサイエンスカフェは、2024年度内に2回開催し、会場の臨場感を届けられるよう、配信も実施した。秋のサイエンスカフェでは、コロナ禍以降導入していた事前申込制について、会場参加では不要としたが、従来と同程度の参加者数を確保することができた。

3. 利用者サポート・セミナー

- (1) 大学院生スタッフによる学部生への学習支援(ラーニングサポート)を対面・オンラインの両方で提供した。春と秋の定期試験期間には、日吉メディアセンターでの出張相談を実施した。出張相談、通常時の対面・オンラインでの相談ともに例年を上回る件数の相談が寄せられた。
- (2) 文献探索セミナーを対面・オンラインの両方で実施した。オンラインの件数は全体の3分の1となった。外部講師によるセミナーは、キャンパスの垣根を越えて学生が受講できるよう、2023年度に引き続きオンラインで実施をした。文献探索セミナー、外部講師によるセミナーともにWebサイトで録画を公開した。
- (3) 文学部図書館・情報学専攻の実習生1名を受入れた(8月19日~30日)。

4. 資料購入関係

- (1) 一般財団法人慶応工学会より学術振興事業の一環として、学生用図書購入のための寄付金15万円をいただいた(9月6日)。
- (2) 化学系のデータベースやプレプリントサーバー会費の支払いを理工学部間接経費で行った。

5. その他

- (1) 機関リポジトリ「ΣStar」のサーバーリプレー

スを行い、リニューアル版を公開した（10月24日～28日）。

湘南藤沢メディアセンター

1. 施設関連

- (1) 静かエリアと地下施設を除いた全閲覧席でのオンライン授業の声なし受講に加えて、1階ラウンジ、2階MMLS、2階と3階のグループ学習室での声出し受講を可能とした（5月）。
- (2) 1階インフォメーションカウンターにシャッターの取り付けおよび修繕工事を行った（8月）。
- (3) 2階MMLSのピクチャーレールを取り外し、書架を新設した（11月）。
- (4) 地下施設の空調工事を行った（12月～1月）。
- (5) AVカウンターに断熱ハニカムスクリーンを設置した（1月）。
- (6) 1階および2階のレイアウト変更を行った（2月）。
 - a 1階モニタールームを2階イベントスペースへ移動した。
 - b 2階レファレンス、データベースコンサルタント、ライティング&リサーチコンサルタントデスクを1階旧モニタールームに移動し、CNS相談デスクを含めて「コンサルティングルーム」へと名称を変更した。
 - c 2階旧レファレンス、データベースコンサルタント、ライティング&リサーチコンサルタントデスクの跡地に読み捨て雑誌や椅子を設置し、「くつろぎスペース」とした。
- (7) 1階オープンエリアに車いす用昇降デスクを設置した（2月）。
- (8) 卓上吸音テレワークブースを1階ラウンジおよび2階MMLSに設置した（2月）。

2. ライブラリーサービス関連

- (1) サービス
 - a 政策・メディア研究科および健康マネジメント研究科の修士論文について、2024年度以降提出分の印刷を中止し、「SFC学位論文リスト」でPDFのみ公開する方針を決定した（6月）。
 - b 配布用の利用案内を名刺サイズのカード形式に変更した（8月）。
 - c 閉館時間を正式に23時から22時へ変更した。

それに伴い、利用規則等を改正した（10月）。

(2) イベント

- a 新入生向け館内謎解きイベント「レイのブログ」を開催した（4月～5月）。
 - b 湘南藤沢高等部の国語授業の一貫として、高校2年生へメディアセンターの説明と見学入館対応を行った（9月）。
 - c 1階オープンエリアで教員持ち込みイベント「公務員座談会」を実施した（10月）。
 - d SFC万学博覧会の開催にあたり、メディアセンターでは館内見学に加え、体験型謎解きイベント「カモからの挑戦状」および3Dプリンターの体験会を開催した（11月）。
 - e 元常任理事・元総合政策学部長の阿川尚之先生の逝去に伴い、追悼小展示を行った（11月）。
 - f 和田研究会学生プロジェクト「ウォームシェア」施策に対し、ポスター貼付、QRコードでの生協ポイント連携の面で協力した（12月）。
 - g 2階MMLSにてSFC Reviewの編集部が最新号「外国語の海外研修」の展示を行った（12月）。
 - h 藤沢市民図書館とおおよそ10年ぶりに懇談し、実施要領改定を含む情報交換を行った（1月）。
 - i 高校生、受験生を対象に図書館を開放するオープンライブラリーを行った（3月）。
- ### (3) 資料移動
- a 大型本スペース確保のためレファレンスブック書架を移動した（3月）。
- ### (4) 学生コンサルタントの活動
- a データベースコンサルタントがプレゼンテーションバトルを開催した（7月）。
 - b メディアセンターフレンズが企画展示8件を行った。

3. マルチメディアサービス関連

(1) サービス関連

- a 短縮開館中土曜日のAVカウンター、FABスペースのサービスを中止した。
- b 館内散歩（360°カメラ画像）を公開した（10月）。
- c 2025年度学部新入生へのCNSメールアカウントの配付廃止に伴い、地下施設予約シ

システムの改修を行った（2月）。

(2) AV機材のリプレイス

- a 3DプリンターMaterialStation×4台と
BambuLab P1S×3台を追加導入した（4月）。

4. 看護医療学図書室関連

(1) ライブラリーサービス関連

- a 利用相談Zoom用PCをカウンターに設置、
サービスを開始した（6月）。
- b 看護医療従事者向けの利用案内を改定した
（7月）。
- c 看護学教育評価実地調査を受審した(10月)。

(2) 企画展示

- ・「大学生生活スタートBOOK」（4月～5月）。
- ・「『今日の看護医療』ゲストスピーカー関連資
料」（6月～7月）。

薬学メディアセンター

1. 利用者サービス

(1) 学生インタビュー実施

「ご意見聞かせてキャンペーン」として、学生
図書委員や図書館をよく利用する学生にイン
タビューを実施した。18人の学部学生・大学
院生からそれぞれ20～30分かけて、来館の頻
度やタイミング、電子ブックの利用、図書館
への要望などに関する質問に答えてもらい、
今後の運営の参考になる率直な意見を収集す
ることができた。

(2) ブラウジングコーナーのリニューアル

軽読書・雑誌資料を増やし、座席をリニュー
アルすることで、学生がより気軽に立ち寄り
やすく、リラックスできるスペースづくりを
目指した。

(3) 電子ジャーナル利用促進

学術雑誌の書架において、電子ジャーナルが
利用できるタイトルに、それぞれのKOSMOS
画面にリンクするQRコードを掲示し、電子
版の利用促進を図った。

2. 資料関連

(1) ブラウジングコーナー資料の充実化

既存の旅行ガイド等に加え、あらたにNewton

別冊や自己啓発本などを購入し、学生が気軽
に読める図書を増やした。

(2) 資料の除籍

カビ対策としての書架の換気改善と、新規購
入図書が埋没しない書架づくりを目的として、
2000年までに受け入れた図書のうち現在の選
書基準に合わない資料や重複資料などを除籍
した。

3. 施設・設備

(1) ブラウジングコーナーにハイカウンター席を
5席設置（3月）。

(2) デジタルサイネージ導入（3月）

利用案内やイベント広報用として館内にデジ
タルサイネージを導入した。芝共立キャンパ
スの他部署のイベント告知等にも活用しても
らうこととした。また、雑音のマスキング効
果を目的として、BGMを試験的に導入した
（3月）。

(3) 資料および什器の清掃（2～3月）

館内に繰り返し発生するカビの除去作業を業
者に依頼し、図書や書架、閲覧席の吸引・清拭・
薬剤噴霧などを実施した。今後1年間、付着
カビ数の定点検査を実施し、経過観察するこ
ととした。

(4) 4階書庫電動集密書架の電装機器更新工事
（10月）